

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

グループホーム ベルジ吉岡たやの家

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念が職員一人ひとりに浸透し、実践していけるよう、又意識されるよう毎日の朝礼で復唱している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	各ユニットでご家族とのコミュニケーションを密に取り、理念を理解していただける努力が必要。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の方との交流をもっと増やしていくようにしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	これからも地域の活動などに積極的に参加し交流を図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者が群馬県地域密着型サービス連絡協議会に席をおいており、認知症サポート講座などを行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価報告書を各ユニットに掲示するとともに、申しや各ユニット単位で、改善項目を増やすような話し合いを行っている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者状況などを報告し話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者は毎月最低1回以上、入居者等状況報告をはじめとした市町村との連携を取っており、サービスの向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>グループ内研修で権利擁護、成年後見制度について学び、必要のある利用者には活用してもらえよう支援している。既に権利擁護を活用して入居されている方もいる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修で虐待防止について学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされる事がないように注意を払い防止に努めている。</p>	○	各ユニット職員で今後も話し合い理解を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に施設見学を行っている。 契約時、解約時ともに十分な説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の中で職員が利用者の話を伺い、管理者への報告を行っている。又、職員同士で話し合い利用者への対応を考えている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に随時、又は利用者の生活状況や健康状態について面会時や電話にて報告を行い月1回のおたより(スナップ写真とコメント入り)も活用し報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各棟玄関にそれぞれ目安箱を設置し、意見・不満・苦情があった場合は各ユニット掲示板にて検討後公表するようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役職者が職員の意見を聞き管理者へ報告・連絡・相談を行っている。 朝礼時や全体会議で話し合いをする機会を設け反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事などの計画を事前に立て、その日に職員の人数を多くするように調整している。 利用者や家族からの要望に柔軟な対応が出来る様に努めている。	○ 職員不足でなかなか必要な時間帯に人員を確保出来ない。職員とのコミュニケーションを多く取り、もっと理解を深め協力体制が作れるように努めていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動などは最小限にとどめ、ダメージを防ぐ配慮をしているが、離職に関しては根本的な部分の改善が難しい場合が多い。	○ 職員同士のコミュニケーション・仕事への理解を深め、働きやすい職場作りに努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループでの段階に応じた職員育成するための研修を企画し、参加出来るよう取り組んでいると共に講師がホームに来られ、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会を持っている。交換研修で他施設の良い面を取り入れサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各ユニットに役職者を配置し、気軽に相談が出来る環境作りをしている。ストレスを一人で抱え込まないよう話し合い、アドバイスしたり、担当制にして業務に取り組むよう努力している。	○ 職員間のコミュニケーションを多く取れるような環境作りにより一層取り組みたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職場外への研修や資格取得などをすすめ、実績を元に評価し仕事を任せる等、向上心を持って働けるように努めている。	○ 仕事内容、介護理念、向上心を持つことの楽しさを職員により多く提供していけたら良いと思う。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には面会や本人・家族との話し合いを行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者等が利用に至るまでに何度も家族と連絡をとり、意見を聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の意見や要望にそったサービス提供が出来る様努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学して頂き、入居後は他の方と馴染める様に職員が対応している。又、必要に応じて家族へ相談を行い協力して頂ける様努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の体験談から学ばせて頂いたり、そばに寄り添い調理方法を教えて頂き一緒に作って食べたり、昔話に共感したりしている機会をもうけている。	○	今後もコミュニケーションを多く取り、外食会なども取り入れ楽しく過ごしていきたい。 年間行事などにお誘いをし、家族に参加を促していきたい。人としての尊厳があり、信頼し合える家としていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と電話で相談したり、面会時に話をして家族の思いを聞いて介護にあたっている。	○	対応面での事後報告だけではなく、時には家族の気持ち聴かせて頂き相談させて頂ける様な関係を築いていきたい。 年間行事などのお誘いし、家族に参加を促していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に家族から今までの生活歴を聴き、事前に把握することで入居後その人に合った支援が行えるよう対応している。	○	利用者からホームでの生活や思い、希望を聴き、又、家族の思い双方が満足できるように支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々面会に来て頂いたりしている。家族の協力により外出や外泊で自宅へ戻られている。 本人が安心でき心落ち着く場所と人間関係継続に努めている。（同窓会への参加・行きつけのお店での買い物・温泉など）		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の人間関係に配慮して、テーブルの位置を決めたり、レクリエーションを通して孤立しないよう努めている。また散歩時は利用者同士手をつないだり、独歩の方が車椅子を押したりして支え合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談を受ける体制が出来ている。長期入院で退居になった場合もアフターケアを行っている。	○	契約が終了してもつきあいを大切にしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を把握し、買い物に行ったり、家族に電話したり、好きな食べ物を買ってきたり、職員間で意向を共有して対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の経歴等を伺いご本人のサマリーを作成し、今までの生活環境や状態を把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態等を記録や観察表に残し、状態の把握、情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の中での本人の希望や意見、家族の希望等を記録に残し介護計画の中に反映させている。又、サービス担当者会議を開き、本人家族、必要な関係者と話し合い、意見やアイデアを反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回モニタリングを行い、状態の変化に応じてユニット会議で話し合い現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づいた事を記録に残し、その記録を元に情報を共有し、毎月ユニット会議を行い、ケアプランの見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族からの要望があった時はユニット会議をしたり、管理者に相談して柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力により防災訓練を行っている。中学生の職場体験の受け入れをしている。ボランティアの方に踊りやハーモニカ演奏を披露して頂いている。民生委員は運営推進会議のメンバーとしてお世話になっている。ボランティアも随時受け入れをしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や必要に応じて訪問マッサージや訪問歯科などを受けられるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が地域包括支援センターと協働しており、実際に権利擁護を受けている入居者がいる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を優先し、希望する医療機関で医療が受けられるよう送迎や受診、介助、付き添いを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症に詳しい医師と関係を築きながら相談し、指示を仰ぎ、情報を共有しながら利用者が診察や治療を受けられるよう支援している。</p>	○	<p>今後も専門医と関係を築きながら利用者が診断や治療を受けられるよう支援していきたい。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>利用者をよく知る看護職員が毎週医療連携の日を設けている。職員と看護師で相談しながら健康管理や医療活用の支援を行っている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した時、週に数回衣類の洗濯物管理などで、本人に面会したり、早期退院ができるように病院関係者と家族を交えた情報交換の場を必要に応じ設けている。医師や看護師に状況を伺い、記録に残している。又、その記録を元に申し送りなどで情報を共有している。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、家族の意向を確認しながらかかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。</p>	○	<p>話し合いの機会を設け、できるだけ早い段階で本人や家族の希望を伺っておけるようにしたい。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>往診時、又は適宜上申にて主治医に状態を報告し相談を行っている。 ユニット会議で話し合い変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>こちらの施設での生活リズム、関わりに対する細かい点など情報提供を行い他の場所に移り住んでもスムーズに生活できるよう支援している。</p>	○	<p>本人との面談や話し合いをもう少し増やしていきたい。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を守られるよう記録等は他入居者の目が届かない所で保管している。プライドが傷つかないよう言葉かけや対応に気をつけている。	○ 利用者が不快に感じるような言葉かけや対応をしないよう気をつける。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者本位を尊重し、常に傾聴の姿勢で対応し、自己決定を促し納得して頂けるような声掛けに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら、入浴時間や清掃などの役割、買い物、できるだけその人の希望にそった支援をしている。	○ 利用者間でのレベルの差が著しく、職員の人数の関係により希望にそえない場合もある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問美容により、本人の希望に合わせて散髪を行っている。又希望により美容院への送迎を行っている。	○ できれば本人の望む店に連れて行けるよう、家族との連携を密にしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットプレートを利用しお好み焼きや手作りおやつ、外食会等食事が楽しいものになるように工夫している。生活支援としてお茶入れ、味噌汁作り、盛り付け、テーブル拭き、配膳、下膳などを職員と共に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつ等はメニューで決まっているが、状況によりジュースや好みの物を出したりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄状況を把握し、オムツ類の使用量や失禁をできるだけ少なくするよう定時以外にも気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にそって入浴してもらえるように言葉かけを工夫している。入浴剤(ゆず湯)などで入浴を楽しんでいただけるように支援している。	○	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように取り組みたい。バラの花のお風呂などで入浴を楽しんでいただいたり、菖蒲湯、薬草湯等も取り入れたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後の休息や、夜間の安眠など希望にそった支援を行っている。湯たんぽを入れたり水分補給の為にペットボトルを枕元に置いたりしている。居室の温度調整に配慮し、快適に眠れるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ、おしぼり巻き、モップかけ、カーテンの開閉等、一人ひとりの力量に応じた支援をしている。季節の花見ドライブ、買い物、ぶどう狩り、りんご狩り、誕生会などで楽しんで頂いている。その他、墓参付添い支援もしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者本人がお金を持つことの大切さは理解しており、一人ひとりの希望や力に応じた対応をしている。(例、必要時に手渡す)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は中庭で日光浴や、散歩、ドライブ行ったりしている。	○	他の方にも平等になるように散歩、外気浴を行っていきたいと思う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節毎に花見や紅葉狩りドライブに行く機会をつくり、支援している。	○	外出する機会をもっと増やし、家族の方にも参加していただけるように取り組んでいきたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いを出したり、家族などへ電話をかけたり、家族からの電話の取次ぎなどの支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は居室又はホールでゆっくりと過ごして頂けるような環境づくりを行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない状況が発生した場合は家族に相談を行い同意を必要に応じ頂くようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全のため入り口のドアを施錠している。入居の際にその旨を家族に説明している。職員が鍵をかける事の弊害を理解した上で、利用者の安全性やトラブル回避、又本人の希望により施錠する場合がある。散歩から戻った後は、少しの間施錠しないケアに努めている。	○	認知症の為、自分の居室が理解できない人もおり、トラブルになったりする事がある為、やむを得ず施錠する場合がある。日中の時間帯で鍵をかけないようにできる時間があるか検討していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら定時の巡視の他に、様子観察の必要な方については随時巡視を行い安全に配慮している。転倒や車椅子より転落の危険がある人は、特に注意をし見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具、はさみ等を使う際には、見守りをし事故のないように努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職場内外の研修にて知識を学んだり、防災訓練を実施したりして事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職場内外研修にて対応を学んでいる。急変時は管理者へ報告し指示を仰ぐ。 主治医に上申し対応している。	○	職員が交代で研修に行き急変時や事故発生時にスムーズな対応が出来るようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については年2回の防災訓練で避難方法を身につけているが、地震や水害についての避難については考えられていない。地域の人々の協力を得られるように管理者から働きかけを行っている。	○	地震や水害についても避難訓練を実施し身につけたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に管理者が家族に説明すると共に、入居後は計画作成担当者が家族に説明し随時話し合いをできるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化等あれば上司に報告すると共に日誌や経過記録に記入し、情報を共有した上で、その日のうちに早期対応を実施し、健康面の支援をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法、用量については理解している。服薬の支援と症状の変化の確認はしている。副作用についてはすべて理解できていないがひつように応じ文献を活用している。	○	全職員が薬の副作用についても理解できるようにしたい。薬の目的、用法などについて理解できるようにしたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多めに摂取して頂いたり、ラジオ体操を行ったりしている。毎日の排便チェックで確認し便秘時には医師に報告・相談している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施している。一人で口腔ケアが出来ない人については、ガーゼを使用しケアしている。義歯は毎日ポリドントにつけ、清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時と10時と15時に水分補給を行っている。それ以外の時間でも希望に応じて対応している。入浴後にはアクエリアスを提供している。冬季の乾燥時期や夏季の脱水時期にも注意をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	業務マニュアルがあり、感染症が発症した場合はそれに基づく対応を行っている。	○	外出後の手洗いうがいを徹底継続する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒と乾燥を行い、ガスコンロは夕食後必ず洗浄し台所内の清潔に努めている。冷蔵庫内の清掃と整理を毎週金曜日に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	段差のない玄関、スライド式のドアで、広く開き、安心して出入りできている。お花や植木があり、玄関の鍵はかけていないため入りやすい雰囲気になっており、自由に訪問して頂けるようにしてある。	○	近隣の方には理解はされているも、交流はあまりなく、ユニットの入口は鍵をしまっているため、すぐに出入りできる様にはなっていない。もっと外部と交流をもてるようにしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を快適に過ごせるように配慮している。ホールには季節に合った飾りや行事の写真を貼っている。	○	収集する入居者がいる為、写真等を飾る事が少なくなってしまうが、工夫していきたいと思う。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるスペースやソファで寛げる場所がある。仲の良い利用者同士がお互いの居室に訪問したりして楽しくお話できている。	○	一人になれる空間を工夫して作りたいと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望により、こたつやテレビ・たんすなどを設置している。カレンダーや年賀状、誕生日のお祝いの色紙、色画用紙や折り紙で製作した物などを居室に飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気を行い、必要な場所に消臭剤を使用している。温度設定は基本的には決められているが、その方の希望により調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ホール、トイレなどに手すりが設置してある。バリアフリーで引き戸になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その方に合わせた声かけや対応を行い、できる限り自立に向けた支援を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に洗濯物を干しに行ったり、気候の良い時期に外気欲などを行っている。		